

令和元年度全国学力・学習状況調査 朝来市小学6年生と中学3年生の 生活習慣や学習環境等に関する 質問紙調査の分析結果



平成31年4月18日（木）実施

調査の概要

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。今年度も昨年度に引き続き、悉皆調査として文部科学省によりすべての小・中学校が対象としてこの調査が実施されました。

この調査によって測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面となります。

そして、この調査には、これからの社会を担っていく子どもたちに身に付けてほしい資質・能力を示したメッセージという側面があるといえます。

調査の内容

- 教科に関する調査
国語、算数・数学、英語（中学校）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
児童生徒に対する調査
学校に対する調査

今年度から、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題が構成されています。



児童・生徒質問紙について

定着していると考えられる生活習慣や自己意識

小学校

- 😊 基本的な生活習慣はおおむね身につけている。(朝食、起床就寝時刻など)
- 😊 家庭での学習習慣がおおむね定着している。
- 😊 地域への関心が高く、行事へ積極的に参加し、地域のことを考えている児童の割合が高い。
- 😊 学校に行くのが楽しみで、友達と協力したり成功体験を感じたりする児童が多い。
- 😊 授業や学級会、道徳の学習では、話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを深めたり交流したりする活動に取り組んでいる。

中学校

- 😊 部活動への参加割合が高く、活動時間が充実している。
- 😊 読書好きの生徒が多く、読書習慣もある。
- 😊 地域行事に参加している生徒の割合が高い。
- 😊 外国への興味関心は高く、郷土を発信したいと思っている生徒が多い。
- 😊 学級で決めたことに協力しようとする姿勢がある。

定着を維持するための取組

小学校

- 👉 規則正しい生活習慣の継続や親子のコミュニケーション充実をめざし、家庭への呼びかけを継続する。
- 👉 地域の人材を活用した教育活動の充実をはかったり、地域の行事への参加を推進したりするなど、地域との連携を深めていく。
- 👉 家庭学習への取り組み方を具体的に提示するなど、家庭と連携して学習時間と質の向上に取り組む。

中学校

- 👉 定着している生活習慣を継続していけるよう、機会を見付け高く評価する。
- 👉 地域の一員として地域行事への参加を促し、郷土を大切に思う心を育てる。
- 👉 外国への発信に対してさらに興味を持てるよう、ALT等外国の人とふれあう活動や国際交流事業の活性化に努める。

課題があると考えられる生活習慣や自己意識

小学校

- 読書をする機会（読書時間・図書館利用頻度等）に差がある。
- 将来の夢や目標を持っている児童の割合が平均と比べて低い。
- 日本や地域のことを外国の人に知ってほしいと思う反面、外国の人との交流には、消極的である。
- 自分の考えを発表する機会では、内容がうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫していたと答えた児童の割合が平均と比べて低い。

中学校

- 朝食を毎日採っていない生徒や、起床、就寝時間が固定化されておらず、生活リズムが確立していない生徒が多い。
- 学習の習慣があっても、学習時間が非常に短く、計画性もやや低い。
- 郷土を外国へ発信するための行動における積極性は低めである。
- 自分が他者から認められていると感じている生徒の割合が低く、学校を楽しんでいる生徒の割合が低い。

課題を改善するための取組

小学校

- 👉 家庭と連携したノーテレビ、ノーゲーム、ノースマホの取り組みに加え、「読書の日」など児童が本に触れる機会や読む機会を意図的に計画し、習慣化する。
- 👉 キャリア教育を充実させ、児童が将来の夢や目標について考え、自分自身の成長や変化を見つめ直す機会を設定する。
- 👉 授業の中で、自分の意見を説明する場面を意図的に設ける。
※話し方や書き方のモデルを提示したり、上手な工夫について取り上げたりする。

中学校

- 👉 朝食摂取率向上に向け、就寝時間を早くする。
※スマートフォンやテレビなどから発せられる人工光を就寝直前まで見ることが睡眠の妨げになることを知識として伝える。
※決まった時間に就寝、起床すること、さらに朝食をきちんと摂ることが1日の活動のエネルギーの基礎になることを、繰り返し指導する。
さらに保護者への啓発もあわせておこなっていく。
- 👉 学習に対する意欲と積極的に他者へ発信することをめざし、授業の中で自らの意見や考えを説明する場を増やし、分かりやすい説明の重要性を伝え実践していく。
- 👉 自尊感情、自己肯定感を高めるために、周囲の大人が言葉かけを工夫する。
※言葉かけを「ほめる」から「認める」へ変えていく。
※地域総ぐるみで、大人みんなが認めることにより、間接的に生徒（我が子）に自信と勇気を与える。

こどもが 安心感を持てる 大人のかかわり

自尊感情と自己肯定感を育むために・・・

園児



『ニコっと、ぎゅっ』でスキンシップ

～笑顔とハグで 伝える愛～
小さなころは無条件の笑顔で、
ぎゅっと抱きしめてあげるだけで・・・

児童

心に届く ほめほめスキル

～ことばで伝える 感謝の き・も・ち～
「ほめる」が照れくさくなったら
「感謝」のことばを・・・

ありがとう



生徒
(中学校・高等学校)



思い出フォトで再確認

～成長と絆の見える化～

ことばを交わす時間が少なくなったら、
小さな頃の写真を飾って・・・



なつかしい写真を毎日目にすることで、こどもがほめられた記憶を思いだし、「私は家族に大切にされている」という気持ちを抱くようになるそうです(^.^)

(ほめ写プロジェクト by 教育評論家 親野智可等氏)